

さんばいフォーラム
事業終了報告

1. 事業名 さんばいフォーラム
2. 開催日時 令和3年11月12日（金）13時～15時50分
3. 開催場所 大阪府立労働センター（エル・おおさか） 大ホール（エルシアター）
 大阪府中央区北浜東3丁目14番
4. 事業内容
 テーマ 2050年CNに向けた脱炭素と資源循環

 構成 基調講演 「2050年CNの経緯と展望」
 講師 大久保 規子 様
 （大阪大学大学院法学研究科教授、中央環境審議会循環型社会部会委員）

 パネルディスカッション「資源循環分野から取り組む脱炭素社会の実現」
 パネリスト
 小林 昌代 様（有限会社清菱）
 仁保 めぐみ 様（有限会社エビオ）
 山口 玉緒 様（株式会社エンタープライズ山夏）
 樋口 かのこ 様（株式会社樋口商店、公益社団法人大阪府産業資源循環協会理事・法政策調査委員会副委員長）

 コーディネータ
 花嶋 温子 様（大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科准教授、環境省3R推進マイスター）
5. 参加人数
 のべ169名（会員78名、非会員91名）
6. 事業成果
 基調講演では、講師の大久保氏より「2050年CNの経緯と展望」をテーマに、カーボンニュートラルの概要と従来の政策・課題について詳しくご説明いただきました。また、廃棄物分野での取り組み事例も具体的にご紹介いただきました。
 基調講演を受けて、後半のパネルディスカッションでは、「資源循環分野から取り組む脱炭素社会の実現」をテーマに、錚々たる廃棄物処理業の女性経営者陣の視点から、資源循環型社会だけでなく、脱炭素社会の実現にも貢献する各社の取り組みについてご発表いただき、産業廃棄物処理業が果たせる役割について議論しました。
7. 後援名義使用承認団体
 近畿地方環境事務所、建設副産物対策近畿地方連絡協議会、近畿経済産業局、関西SDGsプラットフォーム、近畿農政局、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市、寝屋川市、吹田市、大阪湾広域臨海環境整備センター、中間貯蔵・環境安全事業株式会社大阪 PCB 処理事業所、独立行政法人国際協力機構関西国際センター、一般社団法人廃棄物資源循環学会関西支部、公益社団法人全国産業資源循環連

合会、公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター、公益財団法人産業廃棄物処理
事業振興財団、大阪府循環型社会推進協議会

8. 添付資料

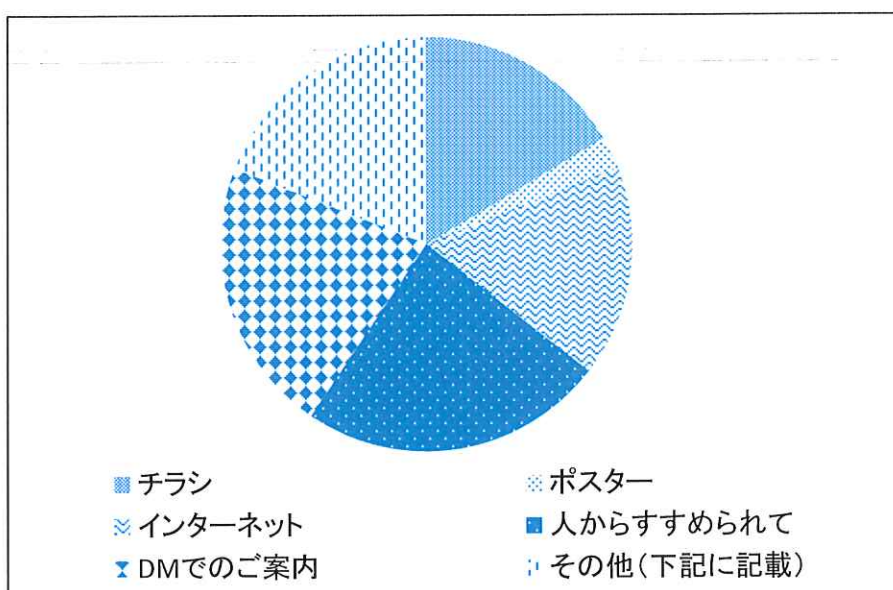
さんばいフォーラム決算報告書

さんばいフォーラムアンケート集計結果

掲載新聞記事（週刊資源循環経済新聞令和3年11月22日発行）

さんばいフォーラム —2050年CNに向けた脱炭素と資源循環—
アンケート集計結果

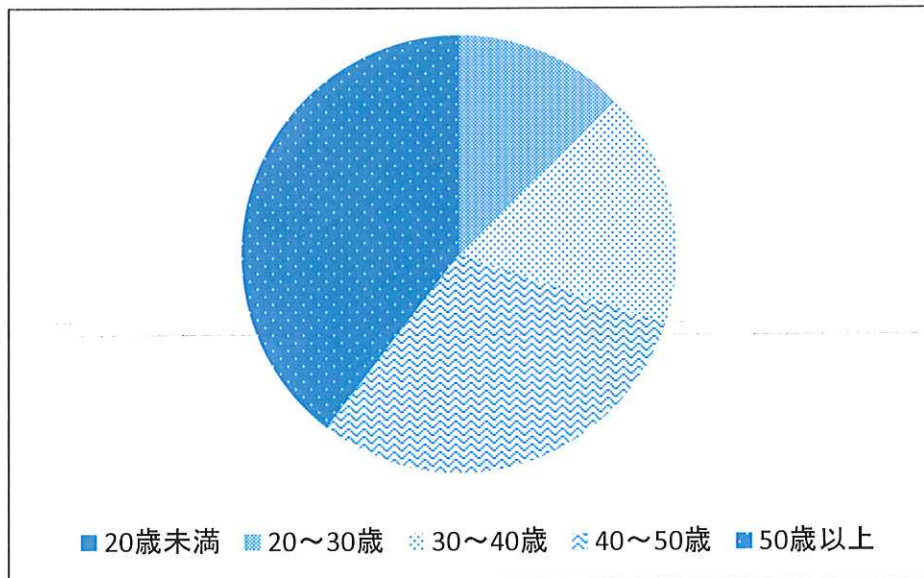
Q1本フォーラムを何でお知りになりましたか		
	回答数	%
チラシ	20	16.5%
ポスター	3	2.5%
インターネット	20	16.5%
人からすすめられて	29	24.0%
DMでのご案内	26	21.5%
その他(下記に記載)	23	19.0%
計	121	



「その他」の回答

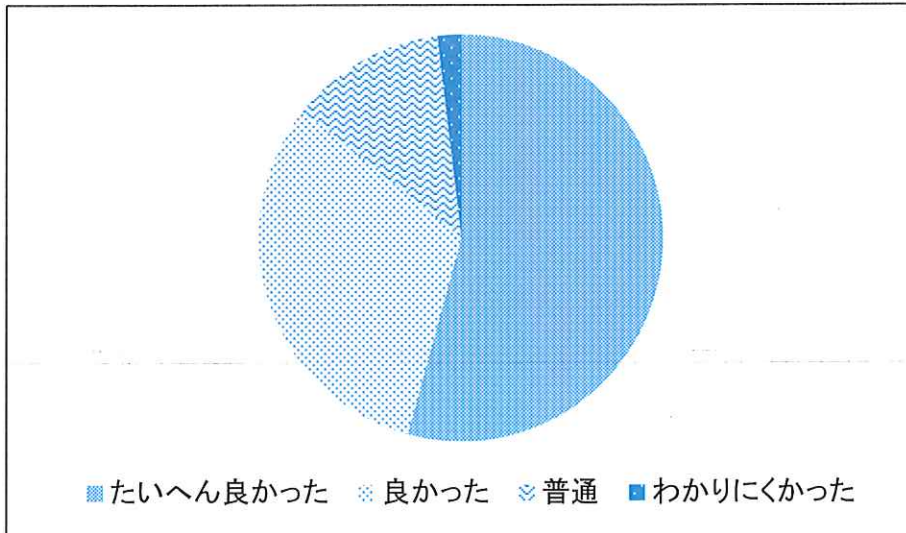
パネラーからの告知
 協会からの案内
 所属NPOからの案内
 会社からのお知らせ
 近畿ブロック幹事会
 青年部
 以前参加したことがあり案内が届いたため

Q2お客さまについて		
20歳未満		0.0%
20～30歳	11	12.8%
30～40歳	15	17.4%
40～50歳	26	30.2%
50歳以上	34	39.5%
	86	

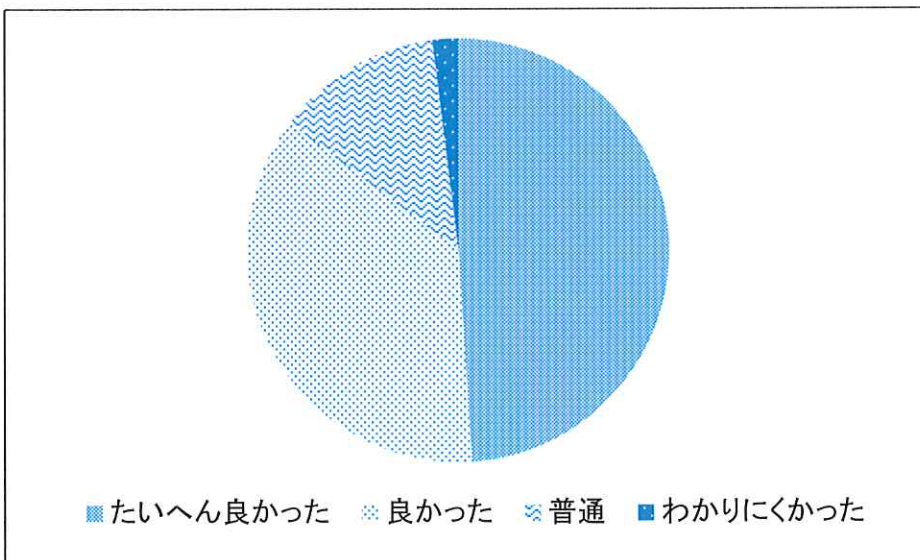


男性	63	79.7%
女性	16	20.3%
	79	

Q3基調講演について		
たいへん良かった	57	54.3%
良かった	33	31.4%
普通	13	12.4%
わかりにくかった	2	1.9%
	105	



Q4パネルディスカッションについて		
たいへん良かった	50	49.0%
良かった	37	36.3%
普通	13	12.7%
わかりにくかった	2	2.0%
	102	



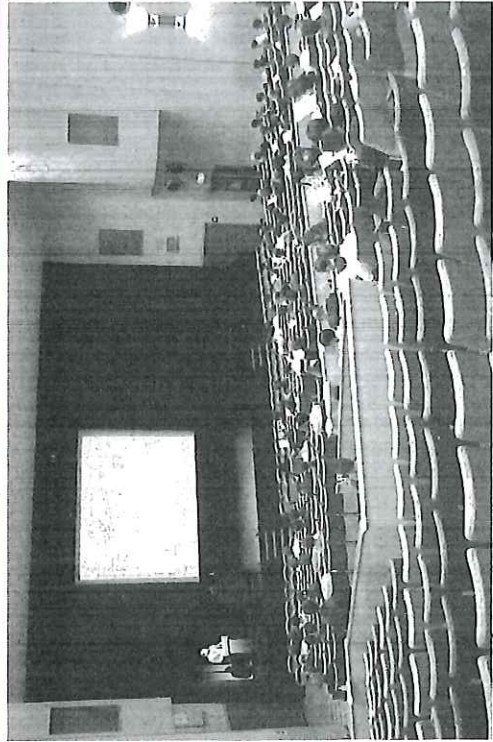
Q5今後このようなフォーラムがあれば参加したいですか		
はい	101	97.1%
いいえ	3	2.9%
	104	

Q6今後取り上げてほしい課題やテーマなど、ご自由にご記入ください
<p>プラスチックの新しい法律について 一般的市民が少なかった様。又は同業他社の参加も欲しい ALL女性で当たりがソフトで入りやすい 基調講演、パネルディスカッションともに女性メンバーで新鮮で、とても基調なお話を聞けて良かったです パネルディスカッションの小林さんの具体的なお考えや行動計画等、とても勉強になりました。 営業マンというのも驚きました 自分の住んでいる地域にこういった会社さんがいてくださったら良いなと思います 分かりやすく、おもしろい内容でした。参加して良かったです 産廃業界はどのように変化していくべきか？ フォーラム全体、パネルディスカッション 女性目線のお話は有意義あるものだったと思います 私も企業の代表として、環境課題に対し、ひとつひとつ解決し、子供達にも伝えていけるよう教えさせられたフォーラムでした 今回のフォーラムで排出事業者としての責任を感じました これからも情報提供を期待しています。 仁保さんのターン良かったです。他にもいろいろ聞きたい 勉強になりました プラスチック新法に関する具体策 環境権と人権は今後日本においてもっと取り組むべき課題だと再認識した 排出事業者です。(産廃の契約書のチェックをしています) 貴重なご意見を聞くことができて良かったです 大阪大学の先生のお話は勉強になって良かったです。 パネルディスカッションは、ディスカッションというより各企業のPRの場のような、アピールの場のような印象でした 脱炭素に向けて、排出事業者が取るべき具体的なアクション 不適正処置を無くすために、排出事業者とともに適正価格を含め対策について マイクロプラスチック リサイクル、ごみに関する教育 有価で引き取ってもらっていたハンガー(プラスチック素材)がこのところ引き取り先がないということで産業廃棄物となって焼却・埋め立てとなっている。リサイクル出来る仕組み作りが必要と思っている リチウムイオンバッテリー処理について 来年も期待しています 社会的認知度アップや業界PRをテーマとしたフォーラムの開催なども良いのではないかと思います。 休憩中の参加者の雑談がちょっと… CN実現のための具体策紹介及び実施事例の報告 地下資源(石油→プラスチック、鉱石→鉄等、石炭岩→コンクリート、各鉱山→レアメタル)の有効利用と資源循環 講師等の飲み物がペットボトルだったのが残念でした 人新世の資本論、脱成長コミュニズム 日本の夏が暑いのは第25条生存権と照らして違憲状態である。行政訴訟できませんか？熱中症は「災害」じゃないですか？ どうやって排出事業者にコスト負担を理解してもらえるか、良いアイデアがほしい 廃棄物発電+CCUS 技術開発動向、先進事例、公的な実証事業、補助金、優遇措置等の適用状況など 国の政策等、具体的に分かりやすく プラスチック 廃棄物削減による脱炭素効果測定 万博について</p>

さんぱいプログラム開催

大阪循環協 脱炭素をテーマに

(公財)大阪府産業資源循環協会(片瀬昭人会長)は11月12日、エールおおさか(大阪府立労働センター)大ホールで「さんぱいプログラム」を開催した。「2050年CN(カーボンニュートラル)に向けた脱炭素と資源循環」をテーマに、有識者による講演とパネルディスカッションを実施。当日は感染症対策のもと、約200人が参加し、廃棄物処理や資源循環分野がSDG SやCNに貢献する方



フォーラムの様子

策や可能性について知見を深めた。

フォーラムは、同協会が13年から「1年に1度、環境についてみんなを考える日」をコンセプトに毎年実施している。開会のあいさつに立った片瀬会長は「産廃業界は今後、地域社会の総合インフラ産業に進化し、地域の課題を総合的に解決する業界へと変化していく必要がある。これを『2030年ビジョン』として打ち出すにあたり、低炭素社会への貢

献も考慮しなければならぬ。じっくりと議論に参加してほしい」と述べた。

続いて行われた基調講演では、大阪大学教授で中環審員でもある大久保規子氏が「2

050年CNの経緯と展望」について解説。脱炭素に関する議論の経緯とポイント、そしてそこの資源循環分野の位置付けについても指摘し、貢献に大きなポテンシャルを持つ

下松R工場で認証取得

リライフ

品質保証のISO9001

産廃処理では稀なケース

中特グループのリライフ(山口県周南市、橋本福美社長、☎0834・33・8685)下松リサイクル工場は、国際的な品質保証のISO9001の認証を取得した。インターテック・サーティフィケーションの認証を受けた。中特グループの他の5社もISO9001を認証取得する方向で活動をはじめた。2022年度中の取得を目指す。

産廃の中間処理や収集運搬を同工場では、

と述べた。後半に行われたパネルディスカッションでは、大阪産業大学准教授の花嶋温子氏をコーディネーターに、協会員企業の女性経営者4人を交えて脱炭素に向けた取り組みを議論。地域に対する地道な取り組みを軸に、脱炭素も含めた環境保全に貢献できるよう考えていくことが重要とした。

事業としている。中間処理は、産廃を形状や性状、成分等を整えて安全で安定して減容化する役割の。中間処理した産廃は、最終処分やリサイクル先に持っていくことになるが、搬出先の望んだ規格に合うように調整が必要になる。

同工場では、細心の注意を払い、中間処理の中で産廃の処理後物を調整している。

ISO9001は、会社が提供する商品やサービスの品質向上を